

「挑戦し続ける人でありたい！」

先月、東京都で開催されたミス・インターナショナル世界大会に日本代表として出場した市親善大使の植田明依さん（緑川地区出身）の言葉です。世界を舞台にした挑戦で、植田さんは見事「ミス・アジアパシフィック」の称号を手に入れました。発表の瞬間、庁舎内で開催された応援イベント会場は歓喜の渦に包まれました。栄えある受賞、誠におめでとうござい

ます。植田さんの世界大会出場への挑戦は、2022年のミス・クマモトへの出場を決意したその瞬間から始まりました。2年半にも及ぶ夢の舞台への挑戦は、言葉では言い尽くせない努力の連続であったことと思います。

特に、2023年に日本代表となり「美と平和の親善大使」を務められたこの1年間は、国際親善など様々な活動に奔走する傍らで世界大会への出場に向けた準備に奮闘する日々であったことでしょう。語学の習得や日本文化の勉強、舞台パフォーマンスのための心身の鍛錬など、多岐にわたるトレーニングを続けるためには、困難に屈しない強い意志が必要であったはず。世界大会での堂々としたパフォーマンス、大会前に行われた事前審査での流ちょうな英語による質疑応答、そして手にした「ミス・アジアパシフィック」の称号が、その努力の跡を物語っていました。また、ご家族からのサポートが何よりも大きな支えとなり、その絆が彼女を一層強くしたのではないかと

思います。夢の舞台を終え帰郷した彼女が真っ先に語ったのは、周囲への感謝の気持ちでした。外界の美しさだけでなく、挑戦し続ける志の高



元樹だより

市長からのメッセージ

元松 茂樹

市長の部屋



こちらからもご覧いただけます

さや凛とした心の強さ、そして感謝の心といった内面からあふれる美しさが以前にも増して感じられました。

日本代表選出後の私との対談で、自らについて「挑戦し続ける人でありたい。教員(当時)として挑戦し続ける姿を子どもたちに見せることで、勇気や希望を与えたい」と熱く語ってくれた植田さん。彼女は今後について子どもたちに挑戦することの大切さや世界に挑んだ経験を還元したい、宇土市を含め日本の良さを世界へ発信する。日本と世界の架け橋になりたい」と力強く語ってくれました。その言葉から、彼女の挑戦し続けることへの情熱と無限の可能性、市親善大使としての活躍にも期待が高まります。

私たちはこれからも植田さんの挑戦を全力で応援し続けます！

香典返し

市社協に次の方々から寄附がありました。厚く御礼申し上げますと故人のご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

- ▽岩古曾町 那須美智子 亡夫 重信 (八四)
- ▽新開町 本田郁子 亡夫 実 (七四)
- ▽走潟町 田代由見子 亡夫 禮司 (七五)
- ▽上綱田町 藪田久美代 亡義母 ツタエ (九四)
- ▽松山町 中島雪子 亡夫 幸義 (七六)
- ▽築籠町 芥川智香子 亡夫 弘視 (七九)
- ▽上綱田町 森 トミ子 亡弟 中山時光 (六七)
- ▽高柳町 伊藤精子 亡夫 達也 (七三)
- ▽松山町 重岡隆一 亡母 松田和江 (九〇)
- ▽松山町 小郷博史 亡叔父 豊司 (八六)
- ▽松山町 千原 弘 亡妻 郁子 (九三)

社協へのご寄附は、確定申告などで、所得税法と地方税法の「寄附金控除」ができます。(※11月10日受付分までを掲載)

編集後記

▽11月は、プロバスケットボール男子の澤邊選手、プロハンドボール女子の前田選手、ミス・アジアパシフィックに選出された植田さんなど宇土市出身者が市役所を訪ねられました。皆さん、私と同世代でありながら、日本や世界の舞台で輝かしい活躍をされていて、その姿に触れるたびに、心から尊敬と誇りを感じます。今後のさらなる活躍を応援しています！(み)

【お詫びと訂正】

広報つと11月号4ページ「子育てを応援する人たちがいます」の子育てつどいの広場緑川の開所時間及び当日不在にされていたスタッフの氏名が不足しておりましたので次のおり訂正いたします。読者の皆さまならびに関係者の皆さまにご迷惑をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。

開所時間

誤) 10時30分～14時30分
正) 9時30分～14時30分
子育てつどいの広場スタッフ
森岡香さん、吉住小雪さん、松岡嘉代さん、片山淳子さん